



社会福祉士の物語



～What is social work?～

府中みどり園

国際大学実習生 2 名、実習終了しました



この夏ははじめて国際大学の学生さんの実習受け入れをしました。4 週間の実習期間中、「社会福祉士の実習はどのような意識で臨んだらいいか」ということを 2 人とも常に考えていました。

実習中は広島福祉専門学校、広島文化学園大学の学生さんたちとも一緒になり、お互いに交流しながらの実習となりました。



新しいプログラム「言葉集」



16.8.10 ~ 8.25



新しいプログラムもこの実習から始めました。府中みどり園の社会福祉士の実習テーマは『聴くことができる社会福祉士』ということで、実習の中でそれを意識的に行ってもらうために、『言葉集』を作成してもらうことにしました。

言葉集は、ただ、入居者様の日々の言葉を書くだけでなく、その言葉から学生が感じたこと、考えたことを書いてもらうことで、自分自身を振り返る、自分の内面を見つめることを目的にしたものです。

感性豊かな学生の間だからこそ、この時期しかかけない『言葉集』が出来上がります。出来上がったものは、実習生に持ち帰ってもらい、府中みどり園での時間を心に留めて、社会福祉士になった時に、思い出してもらえようと思っています。

「人前で泣かんのかよ
泣く時は背を向けて隠れて泣く」

本心からの言葉はわからないけど、
みんなに信頼され頼りにされてきた方だからこそ
人には見せない弱さ涙があったのかも知れない
言葉から、その方の生き方を感じる。

「Kちゃん、ごめんね。」
起きてこられた M さんが、
職員を見つけて送った言葉。



前日、M さんは他の利用者のことをキッカケにずと怒っていた。その怒りの矛先が 1 番向いていたのは職員 K さんだった。M さんの姿に私はショックを受けたが、翌日 K さんに対して M さんが謝る姿を見かけ、ショックが少し和らいだ。

いつもの様子からは
勝手に少し会話が難しい方だと思っていたが、
家族とは笑顔でとても自然に会話していた。

初めて見る表情だった。
勝手にイメージをついていた自分に反省。
そして、何より
家族、っていいなあ。

毎回、地域での活動にも参加してもらっています。カフェほか・・・

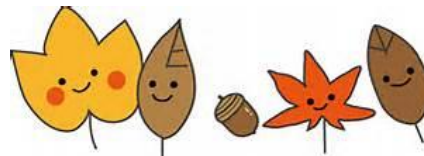


府中みどり園は地域に向けて『茶飲み処 椿』と『あおぞらカフェ』という二つのカフェをオープンしています。それらのカフェ活動も、実習生には、府中みどり園発信の地域の活動として参加してもらっています。地域密着型



の特養として、私たちから地域へ発信できることを考えながら、行っています。また、これらの地域密着型特養の相談員が集まって特養相談員連絡会を作っています(通称FMC)この会議にも参加してもらい、特養相談員の本音トークを聴いてもらっています。

緊張感いっぱいの「支援計画発表会」



今回は支援計画のシートも広島県社会福祉士会の方たちと共同で作成し、そのシートを使用して計画を立ててもらいました。社会福祉士の実習で使用する支援計画のシートはその施設それぞれのもを使用していますが、「社会福祉士としてどんな視点で計画作成をすべきか」というところは、現場の実習指導者の悩みどころでもあります。介護福祉士の実習は養成校のシートを使っていることから、社会福祉士も養成校と協力して、支援計画を立案することを考えて行かなければならないと、広島県社会福祉士会の養成校で働いている社会福祉士と一緒に実習で使いながら、走りながら考えています。



そのシートを使い、立案された計画を発表してもらいました。

2人とも、社会資源や、その方が生活された地域や、ご本人の思い、ご家族の思いを考えて、計画を立案しました。緊張していましたがとても良い発表でした。

社会福祉士の実習を受けて思う事



社会福祉士の実習は自分と対峙するある意味とても厳しい内容だといつも思います。

「あなたは、社会福祉士として自分とどのように向き合っているのか」

「日々、現場で起きていることに対して、自分として、説明できる言葉を持っているのか」

そんなことを、学生を通して、常に問われている気がしてなりません。

学生を受け入れるということは、自分の内面と向き合うということであり、そのことを通してでないと、社会福祉士の実習指導者としての役目を果たせないとも思っています。学生さんの実習は学生さんだけの実習でなく、指導者にとっても施設にとっても大きな意味のある時間です。(小代)